

一般質問通告書

【第65回定例会】

多可町議会議長 河崎 一 様

多可町議会議員 日原 茂樹



受 領 日	番号
平成27年 9 月 7 日 午前・午後 8 時 30 分	5

質問の項目及び要旨	答弁を求める者
1. 防犯カメラの設置	町 長

犯罪における手口は多様化、凶悪化しており、未成年者が連れ去られ殺害されるなど、若年層が犯罪に巻き込まれるケースが増加しています。

地域社会における人間関係の希薄化が進行する中で、警察の捜査手法である聞き込み捜査だけでは、有力な情報を得ることが難しい状況となっており、聞き込み捜査による刑法犯の検挙件数は大きく減少しているといわれています。

その一方で、近年、防犯カメラは様々な場所で普及しております。マンションのエントランスやエレベーターでは、防犯カメラが当たり前に設置されるようになってきました。また、駅や道路、公園といった公共空間で防犯カメラを多く見かけるようになりました。

また、長期逃亡中の犯人の足取りを防犯カメラの映像で捉えた2012年のオウム真理教特別指名手配犯の一連の逮捕劇や、今年にあった防犯カメラの映像が犯人逮捕の決め手となった、川崎市中1男子生徒殺害事件や寝屋川中1遺棄事件などの痛ましい事件は記憶に新しいところです。

防犯カメラを設置したからといって、100パーセントの安全がもたらされるわけではありません。しかし、防犯カメラが設置されているということにより、ひったくりや窃盗犯罪などの抑止とともに、発生時の犯人検挙への活用が期待できます。また、通学路や公園に設置することによって、子供を犯罪から守る効果もあります。

平成26年度の警察白書では防犯カメラが公共の安全を確保するための重要な役割を果たすようになってきていると指摘しています。

多可町でも通学路や公園、商店街などを中心に防犯カメラの設置を速やかに図るべきではないかと考えますが、町長の見解をお伺いいたします。

2. サポートファイルは有効か

教育長

発達障害児は、乳幼児の段階において、できるだけ早い時期に認定と必要に応じた医療機関等での専門的なケアやサポートがうけることによって、その症状が重症化することなく成長し、社会生活を送ることができるようになる可能性があります。あるいは、さまざまな特徴があらわれても、その存在が、周囲の人たちによって、より理解された生活を送ることができるようになると考えられます。発達障害児と保護者や周りの人たちの相互理解のもとになる情報の共有を図るツールとして、サポートファイルと呼ばれるものが活用されつつあります。

このサポートファイルは、成長や発達の様子を乳幼児期から成人期に至るまで継続して、記録、整理することを可能にした支援のためのツールです。その中には、医療、福祉、教育、就労、療養などの分野に分けて、また成長の段階に合わせて記録し、サポートにかかわる家族や関係機関の人たちの間で情報を共有することができるようにするとともに、家族にとっては、何度も何度も、特に苦痛になるような説明をしなければならないことを避けることを可能にすることができるツールであると考えられます。

平成 20 年には文部科学省から支援情報のファイルの有効性が示されています。しかし、通常学級の発達障害がある子どもの場合、サポートファイルの存在を行政・関係機関から知らされていない保護者も多く、個人情報保護の課題も含め、教育現場においては先生方のそれぞれ考え方により有効に活用されていないという声も多く聞きます。

このサポートファイルを多可町ではどのように認識し、有効活用されているのか教育長の見解をお伺いいたします。